

三浦建設工業がSDGs推進

若手人材支援、教育機関に寄付

青森県の日クレードファブリケータ、三浦建設工業（本社・青森県八戸市、社長・三浦隆宏氏）はSDGsへの取り組みを推進する。このほど地元青森銀行、岩手銀行、青森信用金庫の3金融機関が取り扱うSDGs私募債を各5千万円・総額1億5千万円発行し、発行人手数料の一部を地域の教育機関に寄付する活動を開始した。また脱炭素化による環境配慮の流れも踏まえ、自家消費型太陽光発電も計画している。質の高い教育の提供に寄与し、次世代のものづくりを担う地元若手人材を支援するほか、持続可能な社会の実現に貢献することで企業価値を高めていく。

SDGs私募債を通じて、4月は青森銀行「未ミライ」を通じ、八戸 来の創造」を通じ、青森信用金庫「ちいきの」を通じて今年3月に青いた。として今年3月に青いた。

工業大学に対して北東 森立八戸工業高等学北地域の人口減少、イ 校に土木建築科と材料ンフラ老朽化などの課 技術科の実習で使用す題解決に向けたプラン 丸鋸と偏心検査器を



八戸水産高校での寄贈式。左から2番目が三浦社長

脱炭素化へ自家消費型太陽光発電も

各1台、5月17日には、ど成果が表れている。岩手銀行「いわぎんSDGs私募債（寄付員回）の寄付について「リ献型私募債」を通じ、クルート活動の一環。青森県立八戸水産高等学校の授業を通じて鉄接実習で使用するTIG溶接機1台をそれぞれに結び付ければ」としれ寄付した。2校の実た上で「地方の人材不足は深刻。社内的にも引き続き男女区別なく採用できる快適で魅力ある職場環境づくりにある職場環境づくりに

同社はここ数年、動 努める」と話す。

面共有サイト「ユーチ ューブ」を活用した若 は「エネルギーコスト手人材のリクルートに 増加、鉄鋼業界全体の積極的取り組みは 脱炭素化の潮流の中でか、食堂やトイレ、ト 検討してきた」（中田レーニングルームなど 副社長）。出力は45社内環境整備も並行し O₂規模を見込み、て実施してきた。その 日中は100%太陽光結果、昨年度は健康経 発電で工場の消費電力 優良法人に初めて認 を賄う計画。すでに造定されたほか、新卒者 成工事は完了し、今後 の入社数も年々増加。 は、パネル設置工事を 社員平均年齢は約42歳 い早ければ来春の移 転と若返りが進行するな 開始を目指す。



健康経営優良法人 2022に認定